

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	「松戸の緑と歴史に学ぶ～16代?徳川将軍の庭を探る」		
実施日時	平成31年4月17日(水) 9時30分～14時30分		
実施場所	松戸小山浅間神社・千葉大学園芸学部・戸定邸、及び、その庭園		
受講者	36名	FIC会員	13名

活動の内容

昨年、荒天の中で実施し、参加者も少なく消化不良だった企画の再チャレンジとして実施。今年は幸い天候にも恵まれ、充実したイベントができた。

まずはバスで浅間神社に移動しスタート。神域は房総台地から切り離された独立した小山であるため、古くからそれを富士山に見立てた富士山信仰の対象として地元で崇敬されてきた。富士信仰の概要を庚申塚や青面金剛などを見ながら紹介。更に、神域全体が長い間大切に守られてきた結果、小規模ではあるがほぼ極相に達した照葉樹林になっており、アカガシなどの巨木が林立する様子を観察した。



浅間神社参道とご神木のアカガシ

春爛漫の路傍の野草を見ながら千葉大キャンパスへ移動。旧正門を入ったところにある平成天皇行幸記念のモッコクが敢えて立ち枝や懐枝を残しつつも見事に透かし剪定されていることを確認した後、キャンパス内の3つの西洋式庭園（イギリス風景式庭園、フランス式庭園、イタリア式庭園）、及び、ロック・ガーデンを見学する。比較的小さな敷地の中にそれぞれの特徴が解るように工夫してある様子を説明。ちらほら咲き始めたツツジ見本園の珍しい種に加え、イタリア式庭園の近くでは、運良く御衣黄の緑色の花やシロバナタンポポも観察できた。穏やかな天候の下、キャンパスに散らばって昼食の後、戸定邸に向かう。



イタリア式庭園のヴィスタ

大学構内との出入り口を抜けて戸定邸の敷地に入る。再建された四阿周辺で概要を説明した後、建物に入館。芝が貼られたお庭に降り、戸定歴史館の齊藤名誉館長から、戸定邸全体の説明をして頂いた。作ったのは徳川昭武。徳川慶喜によって第16代将軍に擬せられていたが、大政奉還の結果それを果たせなかった人物で、彼の個人的な世界観、趣味などを存分に盛り込んだ建物と庭とのこと。庭園は現存する日本最古の洋風庭園。雨落ち溝まで一面に芝生が張り巡らされ、徳川家に縁の深いコウヤマキの列植や、遙かに皇居を見通す方向には鳳凰が宿ると言われるアオギリの列植、目の下の江戸川の流れの先に東京の町並み、更にその先に富士山を眺望し、目を転ずると日光の男体山も望めるスケールの大きな景色を楽しめる。齊藤名誉館長の名調子に参加者の皆さんも大いに盛り上がった。その後、三々五々館内を見学し玄関を出たところで終了・解散した。



御衣黄の緑色の花



庭で齊藤名誉館長の話を聞く